「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

https://www.jrc.or.jp

March 2023 NO.994

3

令和5年 3月1日(毎月1日発行)　赤十字新聞　第994号　昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

わたしも赤十字　赤十字ボランティア　髙橋(たかはし) 昭(あきら)さん　P.4でご紹介

特集

巨大地震に備える

赤十字の最新情報をSNSでチェック!

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室　〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3　TEL：03-3438-1311　一部20円　赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和5年3月1日（毎月1日発行） 第994号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第994号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 令和5年3月1日（毎月1日発行）

巨大地震に備える

先月のトルコ・シリア地震では、M（マグニチュード）7.8の地震の約９時間後にM7クラスの地震が発生しました。また、東日本大震災では、2011年３月９日に宮城県沖でM7.3の地震があり、その２日後にM9.0の地震が発生しています。 一般的に、一度地震が発生すると、その周辺では普段より地震が起きやすくなると言われています。

昨年12月から、日本政府は、北海道・三陸沖で発生するとされている大規模地震を念頭に、M7以上の地震が発生した際、続いて発生する可能性のある大規模な「後発地震」に注意を呼び掛ける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用を開始しました。

2011年の東日本大震災で津波に襲われた岩手県大槌町

後発地震の備えとして参考になるのは、内閣府がホームページ でお知らせしている「北海道・三陸沖後発地震注意情報」です。
地震発生後に即避難できる準備と、１週間程度の慎重な備えや生活環境の安全確認などを推奨しています。

【地震時に迅速な避難が必要な場合】
揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢の準備

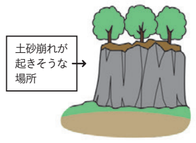
すぐに避難できる態勢での就寝
- ☑ すぐに逃げられる服装で就寝
- ☑ 子どもや高齢者など、要配慮者と同室で就寝
- ☑ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用

非常持出品の常時携帯
- ☑ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯し、就寝時は枕元に置く
- ☑ 身分証明書や貴重品を常時携帯
- ☑ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く

【リスクの高い場所に入る可能性がある場合】
想定されるリスクからの身の安全を確保するための備え

揺れによる倒壊への備え
- ☑ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀などに近づく際には、地震による倒壊リスクを意識して、倒壊にまきこまれないように行動

土砂災害等への注意
- ☑ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所や地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、リスクを意識して、いつでも避難できるようにする
- ☑ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える



【後発地震に注意し、誰もが実施すべき備え】
地震発生時に確実に身を守る行動を取るための備え

緊急情報の取得体制の確保
- ☑ 携帯電話などの緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく
- ☑ ラジオや防災行政無線の受信機などを日頃生活する空間に配置

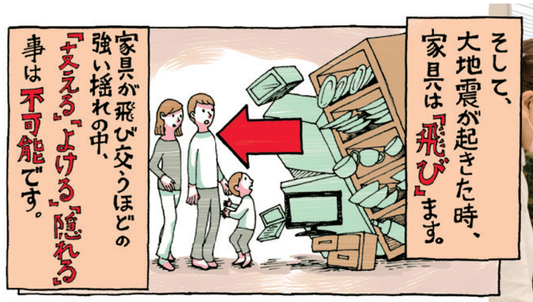
平時からの備えの再確認
- ☑ 水や食料などの備蓄の再確認
- ☑ 避難場所・避難経路などの再確認
- ☑ 家族との連絡手段の再確認
- ☑ 家具の固定の再確認
- ☑ 自治会単位での訓練などでの再確認　など

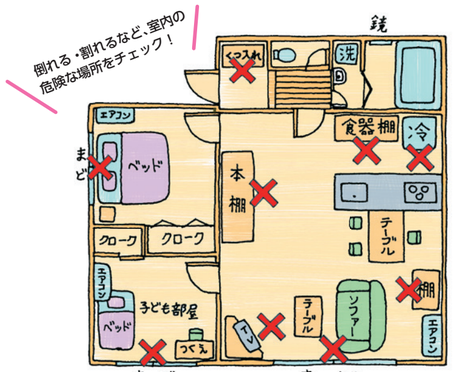
参考：内閣府ホームページ「北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ」 https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index5.html

震源地から離れているから大丈夫？「長周期地震動」にも注意！

今年２月１日から、緊急地震速報に「長周期地震予測情報」が追加されました。長周期地震動とは、大きな地震の際に発生する、周期（揺れが一往復する時間）が長い大きな揺れのことを指します。東日本大震災当時、東京や大阪の超高層ビルが大きく揺れたように、震源地から遠く離れた場所でも家具の転倒などを起こす可能性があります。そこで、緊急地震速報と併せて、この速報を出すことで該当地域の高層階等に警戒を呼び掛けます。被害を最小限にするためにも、日頃から対策することが大切です。

赤十字防災セミナー





赤十字NEWS オンライン版で、おうちの中の安全対策をご紹介⇒

2003年～2016年に発生した震度６弱以上の地震被害を調べると、けがの原因の約３割～５割が、家具類の転倒・落下・移動によるものでした*。家庭内でけがを防ぎ、命を守る備えが重要です。日頃から「大地震が起きた場合」をイメージして危険な場所を確認し、家具の配置、安全対策を考えましょう。

なお、日赤では全国の都道府県支部で「赤十字防災セミナー」を実施しています。今年４月からは家庭内の安全を守る新カリキュラムを追加します。赤十字防災セミナーについては、日赤のWEBサイトでご紹介していますので、以下のURL（二次元コード）をご確認のうえ、各都道府県支部が実施するセミナーへご参加ください。

*東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック 令和４年度版」より

「赤十字防災セミナー」について、詳しくはこちら⇒
https://www.jrc.or.jp/saigai/about/seminar/

ACTION！防災・減災
命のために今うごく

Twitterで防災！「＃あなたの備えがみんなの備えに」

毎年好評の Twitter キャンペーンを今年も開催します！ あなた自身が災害に対して備えていることを、写真やテキストで Twitter に投稿してください。その投稿が他の方の備えの参考となり、命を守る知恵や工夫が拡散されていくことで日本全体の防災意識を高めることにつながります。また、「＃あなたの備えがみんなの備えに」を付けて投稿またはリツイートすると、100 円が賛同企業から日赤の防災・減災への対応を含む活動全般に寄付されます。

命を守るために役立つアニメーション動画！

「ACTION！防災・減災」特設サイトでは、災害に備えて普段から知っておくべき大切な情報を分かりやすくまとめたアニメーション動画を紹介しています。「不安が見えなくなるメガネ」は、発災時に逃げ遅れのもととなる心理について解説。また「おうちの中のモンスター」では、地震によって人に危害を加えるかもしれない家具や家電など身の回りのものについての対策を教えてくれます。

「不安が見えなくなるメガネ」

「おうちの中のモンスター」

ACTION！防災・減災特設サイトはこちら→
https://www.jrc.or.jp/lp/bousai/

令和5年3月1日（毎月1日発行） 第994号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

TOPICS

厳冬期に大地震・津波が起きたら？
避難所での低体温死を防ぐ！ 極寒地での災害演習

日本赤十字北海道看護大学
災害対策教育センター長
根本昌宏 教授

１月21日、22日の２日間、北海道の北見市にある日本赤十字北海道看護大学で「厳冬期避難所展開・宿泊演習 2023」が開催され、日赤職員、関連省庁、自治体、企業等の 126人が参加しました。この厳冬期災害演習は、これまでに10回開催されています。

今回の演習では昨年７月に北海道が発表した「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定」で、津波災害が冬に発生した場合、避難者約25万人、低体温症により死亡のリスクが高まるのは６万6000人という試算が示されていることも受け、同看護大学の災害対策教育センター長の根本昌宏教授が企画。

避難所生活では「トイレ・食事・睡眠」が課題になりますが、この演習ではマイナス16.2度まで外気温が下がる中の「車中泊」や、低体温を防ぐための「加温・保温」を体験。体を温めるために雪を溶かしての足湯を行い、低体温症にならないように保温性の高い寝床を作成するなど、さまざまな工夫がなされました。

演習後、参加者からは「災害で暖房が使えない場合、就寝時の寒さは命に直結する」「寒さで外の仮設トイレに行けない。水分摂取を我慢してしまう。トイレ対策は課題」などの意見が出され、根本教授は「厳しい寒さの中で避難を余儀なくされたときに何が必要か、個人も行政も、状況に応じた備えを考えてもらいたい」と締めくくりました。

● 低体温症を防ぐには「加温」と「保温」が大切

避難者のための足湯用のお湯は炊き出し用の鍋で雪から作った

足はビニール袋に入れて濡れない衛生的な足湯でだんらん

ブルーシートに毛布一枚の雑魚寝は床からの冷気が厳しいことを体感

体育館の床で横になると体に冷気が伝わるので段ボールベッドを活用。感染症対策のため個室用パーテーションを設置

● トイレは重要な感染対策スポット

水道が使用できない場合、汚物処理具をトイレなどに設置するが、感染対策のため１回使いきりに（通常は数回に１回・数人分をまとめて廃棄）

わたしも赤十字 今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。
全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。

赤十字ボランティア
高橋（たかはし） 昭（あきら）さん
東京都立川市／81歳／立川市赤十字奉仕団委員長

温もりを感じられる奉仕団活動
男性も、若者も
もっと活動に巻き込みたい！

私が赤十字奉仕団に携わるきっかけはスカウトでした。2014年、自治会活動の一環で地域のイベントに協力した際、隣り合わせた赤十字奉仕団の女性委員長から「ぜひ男性に参加してほしい」と声を掛けられました。それまでは赤十字奉仕団とは女性が活躍する場所というイメージがあったのですが、赤十字は差別なく人を助ける団体という説明に心を動かされ、参加を決めました。私が奉仕団委員長になったのは2020年。現在、団員は150人いて、赤十字の講習で応急処置やストレスケアなどを学び、それを地域の方に伝えたり、献血の呼び掛けに協力するなどの活動をしています。ボランティアは具体的な活動イメージを持って周りを巻き込んでいくことが大切。災害時、公共交通機関停止時に帰宅者支援をする立川市の赤十字エイドステーションで活動をする予定ですが、奉仕団として災害発生後から取るべき行動のフローチャートを作成し、団員に説明を行っています。

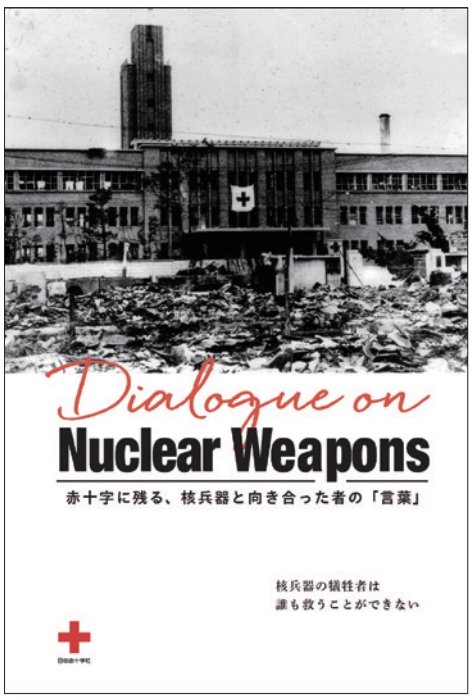
誰かのためにと人の温もりを感じられる活動ができることが、奉仕団の良さです。我々の奉仕団は私を含め男性は２人だけですが、一般の方にもっとボランティアに参加してほしいですね。３年前、市の防災訓練で近くの東京医療保健大学の看護学生が奉仕団のブースに来てくれたのをきっかけに、大学にも協力してもらい、現在までに29人もの学生に入団していただきました。看護学生は包帯の練習はしますが、三角巾を使った包帯法などは珍しいようで、新しい知識の習得にも役立っているそうです。若い方たちの参加はうれしいですね。一緒に活動することで元気をもらっています！

赤十字ボランティアへの
ご協力について詳しくは ⇒

TOPICS

核兵器被害と向き合う当事者の言葉で構成した小冊子が完成

なぜ、赤十字は核兵器廃絶を訴えるのか



2011年、国際赤十字は世界の赤十字社が集う国際会議で、核兵器廃絶を世界に呼びかける決議を採択しました。赤十字は「もし核兵器が使用された場合、その犠牲者を誰も救うことはできない」という人道的観点から核兵器廃絶を呼びかけています。世界で唯一の戦争被爆国、日本。広島、長崎に原爆が投下され、1954年には第五福竜丸被ばく事件が発生。核兵器の脅威に直面した人々は、どのように立ち向かったのか。その言葉に耳を傾けるべく、赤十字に残された写真と人々の言葉をまとめた小冊子、「Dialogue on Nuclear Weapons―赤十字に残る、核兵器と向き合った者の『言葉』」を日本赤十字国際人道研究センターが制作しました。

本書は、被爆者の救護活動を行った赤十字の医師・看護婦たちの言葉で構成する「ヒロシマ」「ナガサキ」、第五福竜丸被ばく事件当時の日赤社長と同船乗務員の治療にあたった医師の思いをつづった「太平洋上」、“ヒバクシャ”の言葉と、核兵器廃絶を目指す赤十字による運動の世界的な広がりを紹介する「世界へ」の４つのチャプターで構成。実体験者の言葉の力、そしてその様子を切り取った写真を基に核兵器廃絶の重要性を考えるきっかけとなる冊子です。また、英語版も作成し、国内のみならず広く世界にも発信する予定です。

この冊子の制作中には、期せずして核兵器問題をめぐり２つの大きな動きがありました。核兵器禁止条約の成立とウクライナ人道危機における核兵器使用の懸念の高まり。いずれも、ヒロシマ・ナガサキ以降、いまだに国際社会がこの問題に決着をつけることができていない状況を物語っています。「この惨劇を二度と繰り返してはならない」と鼓舞する、将来にも受け継がれるべき力強い言葉の数々。核兵器の廃絶の呼びかけとともにヒロシマ・ナガサキの経験を受け止め、次世代に継承していくことも赤十字ができる貢献です。

原爆ドームの左側、爆心のほぼ直下にあった日赤広島支部（写真中央）

米国戦略爆撃調査団撮影／米国国立公文書館提供

被害の実態を当事者の声で伝えることは、核兵器のない世界を目指す世界的運動の原動力となっている

「Dialogue on Nuclear Weapons ― 赤十字に残る、核兵器と向き合った者の『言葉』」は、日本赤十字国際人道研究センターのWEBサイトでPDF版が近日公開される予定です。
https://www.jrc.ac.jp/ihs/other-publications/

献血 まるわかり 辞典

「なるほど！」と思わずヒザを打つ“献血にまつわる豆知識”を紹介。最終回となる今回は、献血でいただいた血液を保存する「貯留保管」です！

vol.12

ちょりゅう・ほかん

【貯留保管】

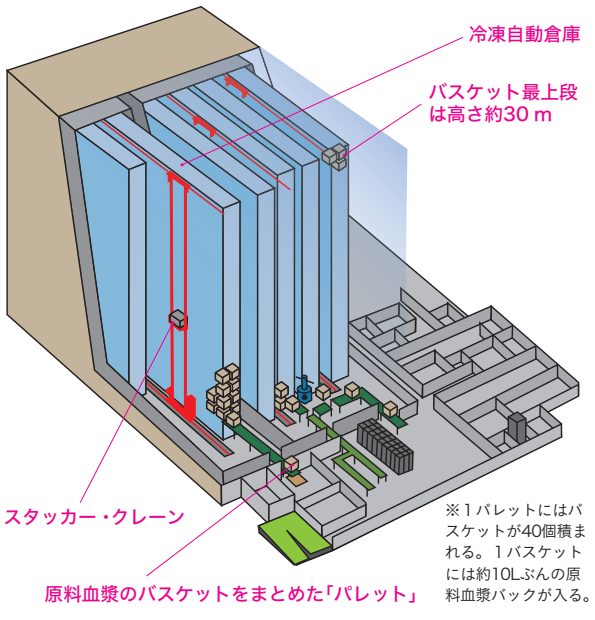
巨大な冷凍設備で保管し、血液の安全性を確保する

献血でいただいた血液は病気の治療や手術などで輸血を必要としている方に使用される他、特定の症状や病気の治療に使用される血漿（けっしょう）分画製剤の原料としても使用されています。血液の安全性を確保するために、日赤では種々の安全対策を行っており、さまざまな精密検査をパスした血液が輸血用血液製剤や血漿分画製剤として製造されます。献血や検査の時点でウイルス感染の疑いがなかったとしても、のちに感染が判明する可能性はゼロではありません。そうした場合に備えて、すぐには使用せずに一定期間「冷凍保管（貯留）」する安全策をとっています。

輸血用血液製剤の「新鮮凍結血漿」は、全国７カ所にあるブロック血液センターにて−20℃以下で６カ月間、凍結保管されます。一方、血漿分画製剤を製造するための「原料血漿」は、製薬会社に送られるまでの間、全国３カ所（北海道・京都府・福岡県）にある超大型の冷凍施設で、同じく−20℃以下で凍結保管されています。

この３カ所の冷凍施設で「原料血漿」が保管される期間は60日間以上。期間中に献血された方にウイルス感染などが判明した場合は、その血液が原料として使用されないようにします。
安全性確保のための貯留保管。巨大な冷凍施設で血液が凍結保管されている様子は、圧巻です。

貯留保管施設
（例：近畿ブロック血液センター 福知山分室）



福知山分室の場合、原料血漿は48万L（約10L入るバスケットが4万8000個）の保管が可能。冷凍自動倉庫の最上段のバスケットの高さは約30m（マンション10階相当）

令和5年3月1日（毎月1日発行） 第994号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は
行われています。

山形県 スキー場パトロールの奉仕団が雪上安全法講習会を開催

1月17日・18日、山形市の蔵王スキー場で山形県スキーパトロール赤十字奉仕団が、赤十字雪上安全法講習会を開催。行動制限緩和で県内外からのスキー客が増える中、雪上の事故などに対応すべく9人の奉仕団員が参加。救助活動に使用するロープの結び方や負傷者を搬送する雪上ボートの操法などスキー場でのパトロール活動に必要な知識と技術を習得しました。

同奉仕団は冬期間に県内各地のスキー場でパトロール活動に従事

埼玉県 日本語学校の外国人学生と高校生JRCメンバーが交流

1月29日、青少年赤十字（JRC）加盟の県内6校の高校生JRCメンバー 27人と指導者6人は、武蔵浦和日本語学院の外国人学生と国際交流会を行いました。中国、モンゴル、スリランカ、ベトナムなど計６カ国の学生が23人参加。日本語で互いの国の文化についてフリートークしたり、JRCメンバーが流行（はや）りの日本語を紹介したり、楽しい国際理解の場となりました。

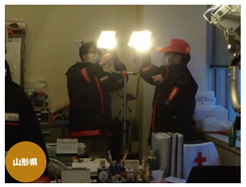
日本の正月遊び「ふくわらい」で場が和み、話しやすい雰囲気に

山形県 宮崎県 埼玉県 地震、寒冷期、大規模災害…さまざまなシーンを想定 全国各地で防災訓練＆災害対応訓練を実施

1月26日、日赤山形県支部では「寒冷期の夜間に地震発生、停電」という想定で災害対策本部の訓練を実施。夜間は室内でも氷点下になるため緊急用のストーブを使用し、非常用電源で各種資機材を稼働させて情報収集をし、救護班派遣・救援物資搬送など、救護活動の手順を確認しました。

1月29日、宮崎県支部は赤十字奉仕団らと共に、南海トラフ地震を想定した総合防災訓練に参加。日赤は負傷者の搬送や応急救護、トリアージ訓練を実施。宮崎市赤十字奉仕団は自衛隊と共同で炊き出しも行いました。警察・消防・自衛隊など35機関・約400人で官民連携の災害対応強化を図りました。

2月2日、埼玉県支部とさいたま赤十字病院救護班は警察主催の「関東管区広域緊急援助隊合同訓練」に参加しました。「広域緊急援助隊」は大規模災害時に全国から駆けつける警察の専門チーム。埼玉県支部は関係機関や他機関のDMATとも連携し、救護所の設営、応急救護、搬送を担いました。



事務所内を照らすため、投光器を使用

災害現場でのトリアージを行う

消防や警察など関係機関と緊密に連携

千葉県 小児病棟に届いた北海道の雪 雪だるま作りで笑顔はじける

成田赤十字病院の小児病棟に、北海道滝川市を拠点に病気の子どもたちへの支援活動をしている「そらぷちキッズキャンプ」から本物の雪のプレゼントが届きました。子どもたちは箱いっぱいの雪に大喜び。冷たい雪に触れ、キラキラした笑顔で雪だるま作りを楽しみました。当日は、積雪80cm、マイナス８度の北海道とオンラインでつながり、交流を深めました。

本物の雪に興奮！ 大はしゃぎで雪だるま作りを楽しむ子どもたち

神奈川県 視覚障害、理解のための動画「オンライン de ライト」を公開

日赤が運営する福祉施設「神奈川県ライトセンター」は、視覚障害者をサポートする際のポイント解説動画「オンライン de ライト」をYouTubeで公開しています。歩行誘導する際の声のかけ方、歩行時の誘導者のポジション、してはいけない危険な接し方、同施設での赤十字奉仕団の活動などを紹介。トイレなどあまり知られていない場面での誘導ポイントも。

視覚障害者の腕や白杖を引っ張るなどの危険行為にも注意を促す

岐阜県 岡山県 災害ボランティアセンター奉仕団が運営訓練に参加

1月28日、岐阜県で南海トラフ地震を想定した「大野町災害ボランティアセンター運営訓練」が実施され、大野町赤十字奉仕団は災害ボランティアの受付や被災者の聞き取りを担当しました。

同日、岡山県では「総社市災害ボランティアセンター設置演習」に岡山赤十字災害支援奉仕団が参加。救護・衛生班として、会場の消毒やボランティアの感染予防管理も担いました。

災害時にも速やかに対応できるようシミュレーションが行われた

京都府 聞こえのサポーター養成講習 JRCメンバーの要望で実現

1月21日、第２回京都府青少年赤十字（JRC）高校生メンバー協議会が開かれ、手話を学びたいというメンバーの要望で京都聴覚言語障害者福祉協会による「聞こえのサポーター養成講習会」も同時開催されました。簡単な手話の実践のほか、音を遮断してコミュニケーションを行う「聞こえない体験」を通して、相手と関わりたいと意思表示する大切さを学びました。

周りから気付かれにくい聴覚障害の方を支援する方法が学べた

大分県 寒さに負けない！ JRCリーダーシップ研修

日赤大分県支部は、青少年赤十字リーダーシップ研修会を実施しました。12月27日は小・中学校の部、1月5日は高等学校の部を開催。小学生19人、中学生2人、高校生21人が参加しました。一次救命処置体験、グループでの話し合いなどのプログラムを通じ、「人見知りだったけど、いつの間にか自分から話し掛けられるようになった」と自信につながったとの声も。

フィールドワークでは各関所で出される課題にグループで取り組む

赤十字はじめて物語 vol.12 関東大震災

日本赤十字社の事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。

日赤も被災しての救護活動、国際赤十字初の大規模な災害救援

1923（大正12）年9月1日、マグニチュード7.9の大地震が首都圏を襲いました。昼食時の火が強風に煽（あお）られ、大火災となり、津波、土砂崩れをも引き起こした関東大震災は、死者10万人を超す大規模災害に。被災地には焼け出され、行き場を失った人々があふれていました。日赤本社は全焼、神奈川県支部は全壊、備蓄していた救護の資機材を火災で全て失いながらも、いち早く救護所を開設し、各地の支部が派遣した救護班が応援に駆けつけ、重傷者や妊産婦の救護に従事したのです。1府（都）6県におよぶ被害総額は当時の国家予算の3.6倍の約55億円。自力復興は絶望的でした。しかし、折しも1919年に赤十字社連盟が発足したばかり。世界の赤十字ネットワークを生かし30カ国以上から多大なる支援が寄せられ、その国際救援は81年後の2004年に発生したスマトラ大地震津波災害まで破られることのない最大規模となりました。こうした各国からの義援金や救援物資、医療団などの人的支援が国境を越えた人道の絆として復興への架け橋となったのです。

赤十字情報プラザ企画展／WEBミュージアム特別企画「**関東大震災 100年 温故備震 ～故きを温ねて明日に備える～**」が4月4日からスタート。展示内容など詳細は赤十字 WEB ミュージアムで4月4日公開 https://www.jrc.or.jp/webmuseum/

アメリカでの募金活動

震災直後、日本の被災者を支援するために募金活動が実施され、各国赤十字社が対応した。写真のアメリカだけでなく、ウクライナからも寄付について電報が届いた記録がある 毎日新聞社提供

常任理事会開催報告

令和５年１月27日、令和４年度第９回の常任理事会が開催されました。

今回の常任理事会では、2040年を見据えた赤十字病院グループの目指すべき姿と経営改善の取り組みについてご審議いただきました。

第101回代議員会開催公告

令和５年３月17日（金）、午後２時30分から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」（東京都千代田区霞が関３丁目３番２号）において第101回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。

令和５年３月１日

記

第１号議案 役員の選出について
第２号議案 令和５年度事業計画について
第３号議案 令和５年度収支予算について

〈⑦3月号特別アンケート〉質問項目

【A】赤十字の活動の中でよく知っている事業はどれですか
ア. 国内災害救護 **イ.** 国際活動 **ウ.** 赤十字病院 **エ.** 看護師等の教育 **オ.** 献血（血液事業） **カ.** 救急法等の講習 **キ.** 青少年赤十字 **ク.** 赤十字ボランティア **ケ.** 社会福祉
※上記選択肢から**ア**～**ケ**の文字をご記載ください。複数選択可

【B】今回、赤十字NEWSを読んで、赤十字の活動の中で理解が深まったのは上記ア～ケの事業のどれですか ※複数選択可

【C】赤十字NEWSの適切な大きさは
ア. 今のまま **イ.** A4サイズ **ウ.** 小冊子（A5 148×210㎜）サイズ

【D】現在の赤十字NEWSの読みやすさ
ア. 読みやすい **イ.** 読みにくい：その理由（文字量が多い/少ない、レイアウトが悪い、写真が多い/少ない、ページ数が多い/少ない）

【E】赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか
ア. 月に１回 **イ.** ２カ月に１回 **ウ.** 3カ月に１回 **エ.** 4カ月に１回

【F】その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望

「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.35 株式会社ふるいち

被災地へ「ぶっかけうどん」を提供し、防災ボランティアや歌で全力復興支援！

岩手県の仮設住宅で被災地支援のオリジナル曲「神様は見ているよ」を披露する古市会長（写真中央）

創業75年を迎える株式会社ふるいちが開発した「ぶっかけうどん」は岡山県倉敷市のソウルフードとして親しまれています。古市了一代表取締役会長が子ども時代に即席で作った「うどん」が原点となっており、その後、改良を重ねて現在の形になりました。

ふるいちは「食業を通じ、必要とされる人になり、人の役に立つ」という理念を掲げ、古市会長は1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災でも岡山から被災地に駆けつけました。歌手活動もしている古市会長は東日本大震災で被災された岩手県の仮設住宅入居者の方々との交流イベントを企画し、ミニコンサートを開催するなど被災者を勇気づける活動も。その後も2018年の西日本豪雨災害で、災害翌日には屋台を持ち込み温かな炊き出しでサポート。「苦しんでいる人を助けたい」という赤十字の理念に共感し、赤十字防災ボランテイアとしても活動しています。また、ふるいちはSDGsにも本格的に取り組みを始め、だしを取る際に使用する鰹（かつお）節を家畜の飼料として提供し、再活用を進めるなど、創業以来培ってきた「ふるいち魂」でチャレンジを続けています。

ぶっかけうどん お土産セット（3人前）
5名さまに

コシが強く風味のよさが自慢の麺と、厳選素材を使用したこだわりのつゆ。モンドセレクション5年連続最高金賞を受賞

商品写真はイメージです

【応募方法】 プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤性別 ⑥赤十字NEWSを手にされた場所 **⑦3月号特別アンケートの回答（質問項目は右上の赤枠内）** ※いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせに利用します。

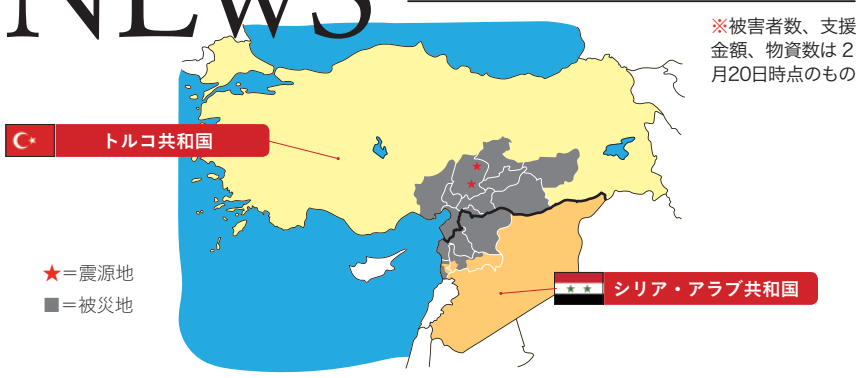
郵送／〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS 3月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785 WEB応募／右の2次元コードからご応募ください。
3月30日（木）必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから応募できます

令和5年3月1日（毎月1日発行） 第994号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

WORLD NEWS

トルコ・シリア地震災害



多くの建物が倒壊し、壊滅的な被害を受けた（写真はトルコ）

両国で死者４万6000人以上※、あらゆる物が不足 国際赤十字の緊急アピールに日赤は2億3000万円支援

厳寒の２月にトルコ・シリアの国境沿いを襲った大地震。
国際赤十字の動きと両国に必要な救援について緊急リポートします。

倒壊した建物、困難を極める救助活動

２月６日、トルコ南東部のシリアとの国境付近で発生したマグニチュード7.8の地震と、その後に多数発生したマグニチュード７クラスの余震により、トルコとシリアの両国で大きな被害が出ています。建物が倒壊するなどして、がれきの下に多数の被災者が閉じ込められてしまい、トルコ、シリア両国あわせてこれまでに亡くなった人の数は約４万6000人（トルコ・シリア当局等、２月20日時点）を超えているといわれています。

トルコ赤新月社では、被災地で職員およびボランティアが救援活動を行っており、これまでに3000張の大型テント、５万600枚の毛布を配布。温かい食事やスープ、サンドイッチなど4600万食を被災者に提供したほか、被災地域での血液の需要増加に対応するため、トルコ全土の人びとに献血を呼びかけ。首都アンカラに168のコールセンターを開き、情報提供や支援場所の案内を行っています。

市民とともに懸命に被災者を救出するシリア赤新月社スタッフ

困窮するシリアでは難民キャンプにも被害

一方、10年以上にわたる紛争や昨年末から流行しているコレラの脅威、経済危機など複合的な危機の中ですでに厳しい状況下に置かれていたシリアは、今回の地震による被害でさらに深刻な状態となっています。厳しい寒さの中、シリア赤新月社のチームは救助活動の支援、被災地での応急処置や重傷患者を病院へ搬送するなど、懸命に活動にあたっています。緊急シェルターの整備や被害状況のアセスメントをはじめ、２万人に医療支援を展開し、２万8500人に食料、２万5000本の飲料水ペットボトル、５万セットの衛生キット、毛布などの必要な救援物資を配布。離散家族の再会支援のために４カ所にホットラインを設置するなど、活動は多岐にわたります。また、被災地であるシリア北西部にある複数のパレスチナ難民キャンプでは、シリア赤新月社との調整のもと、パレスチナ赤新月社（シリア支部）が医療チームや救急ボランティアの派遣を実施。日赤は、この活動を支援するために、パレスチナ赤新月社に対して 1000万円の資金援助を行いました。

国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）は、被害の拡大を受け、２月７日に発表した緊急アピールを計約100億円から、トルコ約 650億円、シリア約290億円の計約940億円に増額しました。IFRCのジャガン・チャパゲイン事務総長は「痛みや苦しみのレベルは計り知れず、支援の必要性も同様に甚大です。国際社会に対しては、復興に必要な数カ月、数年にわたり、トルコとシリアの人びとを支援するよう呼び掛けます」と、長期支援と連帯を国際社会に訴えました。同日、日赤も緊急アピールに対し、トルコとシリアそれぞれの活動に 1000万円ずつ、計2000万円の資金援助を行い、２月 15日にはさらに１億円ずつ、計２億円の追加資金援助を決定しました。また現地で必要な救援・復興支援を継続するため海外救援金の募集を開始しました。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

炊き出しで温かい食事を提供するトルコ赤新月社

「2023年トルコ・シリア地震救援金」
皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。
募集期間：2023 年 5 月31日（水）まで
https://www.jrc.or.jp/contribute/help/2023turkeysyria/

緊急コラム

海外滞在中に地震が起きたら

観光地としても人気のトルコで起きた大地震。もし海外滞在中に地震が起きたら、どのように身を守るか。
自然災害の多い地域への派遣も数多く経験している日赤職員に話を聞きました。

日本赤十字社 国際部 参事
齋藤之弥（さいとう・ゆきや）

もしもホテルで就寝中に地震などが発生したら、たとえ見た目が新しくても構造が弱そうな建物ならば急いで屋外に退避し、頑丈な造りならば、むやみに屋外に出るのも落下物の危険があるので室内でデスクの下などに隠れます。割れた窓ガラスや鏡の破片で足をけがしないよう、就寝前にはベッドのそばに靴を置いておく。また、すぐに持ち出せるよう、①パスポート、②現金や貴重品、③連絡先や航空券の写しなどを小さなバッグに入れて枕元に置きましょう。日赤の国際要員が海外に派遣されるときは、日本の「非常用持ち出し袋」の中身にあるような応急キットや万能ナイフ、携帯電話の充電器やモバイルバッテリーなども携行しています。事前に滞在先の近くに病院があるかを調べておくのも大切です。海外旅行の保険に入れば病院の場所や受診の仕方も教えてもらえます。災害が発生したとき、屋外で注意するべきは、上から降ってくるもの、倒れそうなもの、破損した電線などです。建物、樹木、電柱からなるべく離れ、橋や高架道路の下には入らない。ぶら下がった電線が触れている水たまりなどで感電しないよう、周囲をよく観察しましょう。災害発生後は、通信がつながりにくいかもしれませんが、安否確認もお忘れなく。暴動や略奪が発生する場合もありますから信頼できる情報を得て危険を避けましょう。そして、不安やパニックに追い詰められないよう、持ち出しバッグにはご自分の心が安らぐものを１つでも入れておくと良いですね。